

# 論壇

## 最終段階で交渉加速

スペインの首都マドリードに会議にきている。こちらのシンクタンクが主宰する政治経済関係の会議に出席するためだ。そこで主要な話題になったのは、日本とEUの間で合意がほぼ成立している経済連携協定(EPA)であった。日本とスペインは遠い国ではあるが、スペインの対日感情は良好である。経済連携協定の締結によって、経済的にも文化的にもさらに交流が深まることを期待したい。スペインというと、ドイツ、フランス、英国、イタリアなどほとんど日本では話題になることは少ない。

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

経済規模が相対的に低いこと、平均所得水準が欧州の他の主要国よりも低いことなどがその理由かもしれない。

ただ、スペインと中南米諸国の関係は深い。ブラジルを除いた中南米の国の大半がスペイン語を言語としている。スペインの通信会

交渉をまとめたという思いが双方で強くなったように見える。それにはもちろん理由がある。

まず日本側の事情であるが、トランプ政権がTPP(環太平洋連携協定)の交渉から離脱することを決め、ほとんどまとまりかけたTPPの交渉が頓挫したことだ。

## 成立間近の日欧EPA

社であるテレフォニカや大手銀行のサンタンデル銀行などは、中南米に巨大なネットワークを持っている。中南米の国との経済関係を深める上でも、スペインは重要な役割を果たしている。

さて、日本とEUの経済連携交渉であるが、最後の段階で交渉がスピードアップした。何としても

日本との経済連携協定の締結を急ぐ必要が出てきた。欧州は米国とも経済連携の交渉を実現したいと考えていたが、これもトランプ大統領の就任によって難しくなっている。

### 日英の協定にも影響

日本にとっても、欧州にとっても、経済連携協定が締結されることの意味は非常に大きい。それぞれもそれぞれの国内の複雑な利害関係があり、交渉は簡単ではなかった。最終段階で、トランプ政権の誕生や英国の離脱などの想定外の動きがあり、それが交渉をまとめる力となったことは、歴史の偶然ということだろう。

日本とEUの経済連携協定の締結は、今後の日本の経済連携協定

の戦略にも大きな影響を及ぼすことになる。その一つが英国と日本との経済連携協定の交渉開始だ。英国側はこの協定に関心を示している。EUからの離脱を国民投票で決めた英国にとって、日本との経済連携協定をまとめることの意味は大きい。

英国は多くの日本企業にとって欧州進出の拠点となってきた。英国のEUからの離脱で日本との関係が弱まることは、英国経済にとっては大きな打撃となる。そうしたことを避けるためにも、日本との経済連携協定の締結が英国には必要となるのだ。

いずれにしても、日本とEUの経済連携協定によって、いろいろなことが動くとしている。その動きにぜひ注目してほしい。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。